

血い吸うたろか!

「ご存じコメディアン間寛平さんのギャグですが、今回は蚊のお話です。」

不特定多数の方々が利用する公民館。コロナ禍のもとは部屋の換気が絶対条件です。この猛暑の中、窓を開けるのは辛いのですが、時折熱風とともに蚊が侵入してくるのには閉口しています。

さて、ここで問題です。事務室には男女5人が机を並べています。私他に、40代の男性二人と女性一人、それに大型新人の20代女性という布陣です。このうち蚊が最も好んで刺すのは誰でしょう? 血を吸う蚊は雌だから、やっぱり男性だろうと考えたあなた、発想の原点が危ないですね。常識的には若者の新鮮な血を好みそうなのですが、これも違うのです。

なんと一番蚊に刺されるのはジジイの私なのです。「館長はいいもの食べてるから」と、職員たちは知った風なことを言いますが、蚊に刺されやす

いかどうかは、性別や年齢に關係なく全く別のところに原因があるようです。

足の裏の常在菌。これが犯人です。人の足の裏には、様々な菌がいるそうです。これらは腸内菌と同様無害なのですが、その中の一部の菌が出す化学物質が、蚊を興奮させ血を吸う行動を促すのだそうです。蚊はその菌を多く持っている人に集まり刺すのです。

ところで、公民館のお隣のご主人から、今年は蚊が少ないとお聞きしました。確かに梅雨が明け猛暑が到来してから、蚊の被害は少なくなりました。蚊の活動は25度から30度位が活発になるところで、猛暑が蚊の活動をセーブしているようです。これぞ神の思し召しでしょうか。